委員会報告
新型コロナウイルス感染症特別委員会から

コロナ５類移行後も安心の体制を

本年１月３０日、神奈川県議会「新型コロナウイルス感染症対策委員会」が開催され、**西村くにこ**も要望、提言を交え質疑をしました。政府は新型コロナの感染症法上の位置づけを、５月８日に季節性インフルエンザなどと同じ「５類」へ移行する方針を決定しました。しかし、感染力や病原性が変わるわけではなく、引き続き感染対策は必要です。

費用負担の問題を解決せよ



西村くにこは昨年からウィズコロナを見据え「５類移行後も、**①今まで公費で負担されていた「医療費」をいきなり自己負担にしない。②「ワクチン接種」も当面は無料接種を継続すること。**」を求めてきました。現在、国は「期間を区切った医療費の公費負担継続」を示しています。さらに今後は、セルフチェックを推奨するため「抗原検査キット」の低廉化を求めてまいります。

国産医薬品の開発を後押しせよ

安定・安心の医薬品確保という視点からは、国産での治療薬やワクチンの開発が重要です。ワクチンは国内４社が開発を進めており、すでに２社が承認を申請しています。我が川崎には医療特区「殿町キングスカイフロント」があり、ワクチンの研究にも取り組んでいます。県として情報をしっかり収集し、県内の取り組みを後押しするよう要望しました。



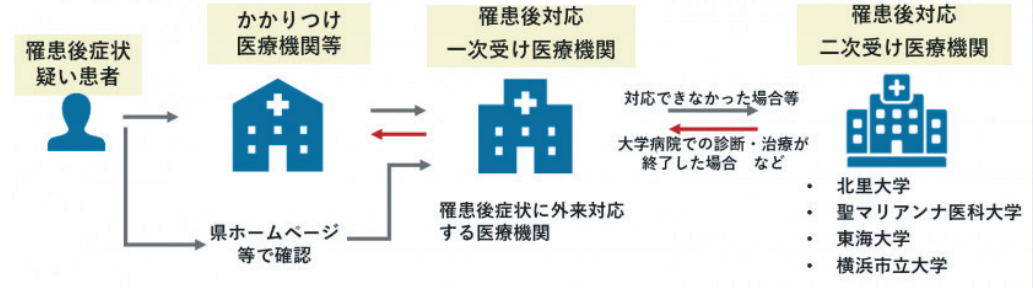
罹患後症状（いわゆる後遺症）の対策も

アメリカのシンクタンクの分析によると、米国ではコロナ罹患者の４人に１人が後遺症により離職。経済的損失は最大で年間 2300 億ドルおよそ３０兆円にも及ぶそうです。コロナ後遺症については、科学的なメカニズムの解明や治療法の確立とともに、経済的な視点からも対策が求められています。**西村くにこ**は質疑の中で、コロナ後遺症における**①総合的な相談窓口の設置②最新の治療の標準化③治療の保険適用**④職場学校での理解の促進など、具体的な体制整備を求めました。なお、罹患後症状対応医療機関は県ＨＰから検索できます。

代表的な罹患後症状

●疲労感・倦怠感 ●関節痛 ●筋肉痛 ●咳 ●喀痰 ●息切れ ●胸痛
●脱毛 ●記憶障害 ●集中力低下 ●頭痛 ●抑うつ ●嗅覚障害
●味覚障害 ●動悸 ●下痢 ●腹痛 ●睡眠障害 ●筋力低下

罹患後症状対応の取り組みのイメージ図



新型コロナの罹患後症状（いわゆる後遺症）について

新型コロナの罹患後症状（いわゆる後遺症）について
かなチャンＴＶより

受験生に希望とチャンスを！

昨年１１月２１日の同委員会では、西村くにこが公立高校の入試に対する配慮を求めことに対し、教育委員会は「本年度は受験できなかった人向けの【追検査】を志願先の高校で実施し、日程もコロナの隔離期間を考慮して２月２２日とする。」と答えました。

さらに、コロナ感染などで本試験や追検査も受験できなかった人を対象とする「追加の検査（３月９日）」も用意しました。

